

# 消化器系

## ⑥ 1 担当教員名

教授・医師 谷 眞 至 (外科学講座 消化器外科)	非常勤講師
教授 久津見 弘 (臨床研究開発センター)	生 内 一 夫 (はえうち診療所 院長)
教授 安 藤 朗 (内科学講座 消化器内科)	久保田 良 浩 (徳洲会宇治徳洲会病院 副院長)
教授 辻 川 知 之 (総合内科学講座)	塩 見 尚 礼 (長浜赤十字病院 副院長、 第一外科部長)
教授 寺 田 智 祐 (薬剤部)	山 崎 道 夫 (公立甲賀病院 医師)
准教授 向 所 賢 一 (病理学講座 人体病理学部門)	古 川 顕 (首都大学東京 教授)
講師 飯 田 洋 也 (外科学講座 消化器・乳腺・一般外科)	大 崎 理 英 (長浜赤十字病院 消化器内科 第一消化器内科部副部長)
講師 太 田 裕 之 (総合外科学講座 地域医療支援)	
講師 稲 富 理 (消化器内科)	
講師 三 宅 亨 (消化器外科)	
講師(学内) 山 口 剛 (外科学講座 消化器外科)	
講師(学内) 貝 田 佐知子 (消化器外科)	
助教 大 塚 武 人 (内科学講座 消化器内科)	
助教 坂 井 幸 子 (外科学講座 乳腺・一般外科)	
助教 石 川 健 (消化器外科)	
助教 河 合 由 紀 (乳腺・一般外科)	
特任助教 松 本 寛 史 (光学医療診療部)	
特任助教 富 田 香 (腫瘍センター)	

## 2 配当学年等

第4学年 前期

## ① 3 学習目標

各専門科の協力を得て、消化器系の正常構造と機能を理解し、主な消化器系疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療をトータルに学び、様々な科との連携について学ぶことを目標とする。

乳房の構造と内分泌依存性の機能を理解し、主な乳房疾患の症候、診断と治療を学ぶ。一般外科・小児外科においても主な疾患の症候、診断と治療を学ぶ。

### 【病理学講座】

消化器病学の分野で病理診断は、画像・光学診断や遺伝子診断が発達した近年においても、腫瘍性病変に関しては病変の質的診断に決定的なものである。さらに病変の深達度・拡がりや転移の可能性を評価し、根治性や追加療法の必要性の判断に必要な情報を提供する。また炎症性疾患に関しても、補助的診断として最も重要なものの一つとなっている。臨床における消化器病理学の役割と病理診断の考え方を理解することを目標とする。

### 【内科学講座・消化器内科学】

General Internal Medicineに関わる基本的な知識、態度、技能、価値観を習得しつつ、消化器内科学に関する専門的な内容を学ぶ。すなわち、消化器系の解剖、生理から、各疾患の病態、診断、治療などに関する総合的な講義から得られた知識を習得し、さらにチュートリアル学習の実践により、患者毎のProblemを抽出、統合し、そのProblem solvingに関する方法を学ぶ。

### 【外科学講座・消化器外科学】

消化器外科は食道、胃・十二指腸、小腸、大腸、虫垂等の管腔臓器、肝臓、脾臓、胆道、膵臓等の実質臓器や腹膜などの腹腔内病変の外科治療を対象としておりする。乳房の構造と内分泌依存性の機能を理解し、主な乳房疾患の症候、診断と治療を学ぶ。一般外科・小児外科においても主な疾患の症候、診断と治療を学ぶ。

### 【歯科口腔外科学講座】

歯科口腔外科学は、歯、顎、口腔の疾患や形成異常およびこれらに対する障害を診断し、治療し予防する科学である。口腔疾患のすべては、個体と切り離して考えることは出来ないのは当然であり、医学生に於いては口腔の基本的な構成と機能を学ぶと同時に、口腔の内外に発生する歯性の諸疾患を観察し、その成立機転をもって、これら相互間や全身との因果関係、身体への影響を考慮し、併せてそれに適した治療に至るまでの判断力を養うことを目標とする。

### 【放射線医学講座】

腹部単純写真、各種造影検査、超音波検査、CT検査、MRI検査、血管造影検査などの検査法の原理、長所、限界、適応を理解すると同時に、さまざまな疾患における特徴的な画像所見を学習する。また、近年、著しく進歩した領域として画像手技を応用した治療学：Interventional Radiology (IVR) があるが、さまざまなIVR治療の手技、適応、限界につき学ぶ。

### 【薬剤部】

消化器関連疾患の治療薬として用いられる医薬品の薬理、薬物動態、製剤の特徴について理解することを目標とする。

以上から

- 1) 臨床診断ができる
- 2) 各治療法の適応が説明できる
- 3) 手術術式について説明できる
- 4) 病態生理を説明できる
- 5) 予後や治療成績を説明できる
- 6) 臨床解剖が説明できる
- 7) 画像所見を述べることができる
- 8) 検査所見を述べることができる
- 9) 各臓器の生理学的機能や各臓器の位置関係、形態、関係する血管の説明・図示ができる。
- 10) 各臓器の調整機序や作用、仕組を説明できる。
- 11) 発生に基づいた解剖を説明できる。

## ② 4 授 業 概 要

4週間にわたり、消化器に関係した様々な専門科の講義を一挙に行うことにより、消化器関連臓器の疾患の原因、診断から治療を全て網羅した授業内容とする。

従来の系統講義を様々な角度から同時に行うために、臨床では消化器内科、外科、放射線科、歯科口腔外科の参加を得て、消化管、消化器の解剖から機能、疾患またはそれに対する診断・治療を主要疾患について情報提供し、発達の関係した疾患については小児科の協力を得て行う。また組織診断に関しては病理の参加を得て行う。さらに臨床的な特殊検査については光学診療部の参加を得る。また消化器に関係した様々な薬剤については薬剤部の参加を得る。

得られた知識に対してはそれぞれの週に行う症候別少数人数能動学習により確かなものとしていく。

特別講義では、この1ヶ月の間に含まれないトピックスや特別な分野の専門家による新しく専門的な情報を追加するため、形成外科、新しい小腸検査法、小児に特徴的な消化器外科疾患についての講義を行う。

### 【病理学講座】

消化器疾患の診断及び治療計画において、病理診断の役割は極めて重要であるため臨床に即した病理学の講義を行う。

### 【内科学講座・消化器内科学】

医学における教育プログラム研究・開発事業委員会の策定した「医学教育モデル・コア・カリキュラム」が要求する消化器の正常構造と機能、消化器疾患の病態と診断、治療に関する必須知識を問題解決型手法により習得する。講義では、消化器領域のコアを概説し、まず疾患の病態を理解するために必要な消化器系の構造と機能について整理し、つづいて徴候・病態に主眼をおいた消化器疾患の講義をすすめていく。

### 【外科学講座・消化器外科学】

H22年度に改訂された医学教育モデル・コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン—が要求する消化器疾患に対する外科診断、外科治療に関する講義を行う。これらの理解には解剖、生理、病態病理の知識が必須となるため、それぞれの講義までに、知識の再確認を求める。また、外科診療を行う上で、術前診断や術前後の治療などで内科や放射線科を始めとした他科との連携が非常に重要になってくる。臓器や疾患をトータルに捉えるためにも他科との連携について言及する。

### 【歯科口腔外科学講座】

授業は口腔診断学、歯・顎・口腔の発生・発育・構造・機能、歯・歯周疾患の特徴と継発疾患、口腔領域の腫瘍、炎症、外傷、口腔粘膜疾患、顎関節疾患などの病態、治療について講義する。

### 【放射線医学講座】

消化管については、腫瘍性、非腫瘍性病変の各種画像診断の進め方とそれぞれの疾患における特徴的な画像所見を解説する。特に、近年CTやMRIの進歩が著しく、それらの役割を強調する。消化管癌の治療については、消化管狭窄に対するステント留置術や、転移性病変に対する化学塞栓療法、腫瘍焼灼術など、さまざまなIVR手技を解説する。肝、胆、膵領域の画像診断については、超音波、CT、MRI、血管造影の役割とそれぞれの疾患における特徴的な画像所見を解説する。また、画像誘導下に行う経皮的生検術につ解説する。

### 【薬剤部】

消化器領域における薬物治療学：

1. 代表的な消化器疾患の病態生理の復習
2. 代表的な消化器疾患で使用される医薬品の特徴
3. 代表的な消化器疾患における薬物療法のポイント

以上より、将来のチーム医療や問題解決型学習の礎になる講義とする。

## 5 授 業 内 容 ③ ④

各領域のspecialistによる講義を予定しています。

単なる個別疾患の教科書的な知識にとどまらず、臨床への応用が広がる疾患の病態生理や、診断方法、治療方法の考え方を学べる内容を、最新のtopicをまじえて、網羅的に講義していただく予定です。

年月日(曜)	時限	担当教員	項目	内容	教室
令和2年					
4月20日(月)	1	松本	食道	食道疾患の内科治療	臨1
4月20日(月)	2	山口	食道	食道疾患の外科治療	臨1
4月20日(月)	3	大塚	胃・十二指腸	胃十二指腸悪性疾患内科治療	臨1
4月20日(月)	4	稲富	胃・十二指腸	胃十二指腸良性疾患内科治療	臨1
4月20日(月)	5	谷	総論	総論	臨1
4月21日(火)	1	貝田	胃・十二指腸	胃・十二指腸疾患の外科治療	臨1
4月21日(火)	2	辻川	小腸・大腸	小腸・大腸の機能性疾患	臨1
4月21日(火)	3	安藤	小腸・大腸	炎症性腸疾患1・潰瘍性大腸炎	臨1
4月21日(火)	4	〃	小腸・大腸	炎症性腸疾患2・クローン病	臨1
4月22日(水)	1	太田	小腸	小腸疾患の外科治療	臨1
4月22日(水)	2	貝田	大腸	大腸疾患の内科治療	臨1
4月22日(水)	3	三宅	大腸	大腸疾患の外科治療	臨1
4月22日(水)	4	大崎	肝臓	肝疾患総論	臨1
4月22日(水)	5	〃	肝臓	肝疾患各論	臨1
4月23日(木)	1	飯田	肝臓	肝臓疾患の外科治療	臨1
4月23日(木)	2	寺田	薬物治療	薬物治療	臨1
4月23日(木)	3	古川	消化管	消化管画像診断	臨1
4月23日(木)	4	生内	肛門	肛門疾患	臨1
4月24日(金)	1	富田	乳腺	乳腺疾患の診断と治療	臨1
4月24日(金)	2	河合	乳腺	乳癌の治療	臨1
4月24日(金)	3	坂井	小児外科	小児外科1	臨1
4月24日(金)	4	久保田	小児外科	小児外科2	臨1
4月24日(金)	5	塩見	胆道	胆道疾患外科治療	臨1
4月27日(月)	1	久津見	胆道	胆道疾患の診断と内科的治療	臨1
4月27日(月)	2	山崎	肝胆膵	肝胆膵画像診断	臨1
4月27日(月)	3	稲富	膵	膵疾患内科治療	臨1
4月27日(月)	4	谷	膵	膵疾患の外科治療	臨1
4月30日(木)	2	石川	腹膜・腹壁・横隔膜・脾疾患	腹膜・腹壁・横隔膜・脾疾患の外科治療	臨1
4月30日(木)	3	向所	病理	消化器の病理	臨1
5月11日(月)	4		試験		臨3
6月8日(月)	4		再試験		臨1

## 6 授業形式・視聴覚機器の活用

単独または複数科による講義。スライド、ビデオ、PCを使用。

## ⑦ 7 評価方法

場合により講義終了時に小テストを行い、出席点を兼ねる。

出席よりも、授業内容の理解に、より評価の重点を置く。

## 8 教科書・参考文献

### 【病理学講座】

『外科病理学 第4版 I』(向井 他編：文光堂)

『病理と臨床 臨時増刊号 Vol.26 外科病理マニュアル』(深山 他編：文光堂)

### 【内科学講座・消化器内科学】

『新消化器病学』(石森：文光堂)

『臨床生理学シリーズ「胃」「腸」「肝臓』(星、入来：南江堂)

『シリーズ 消化器病セミナー』(へるす出版)

『Bockus Gastroenterology』(Berk 他)

『Textbook of Gastroenterology』(Yamada 他)

### 【外科学講座・消化器外科学】

(外科学一般)

『標準外科学』(武藤、相馬編：医学書院)

『New外科学』(出月、古瀬、杉町編：南江堂)  
『Principles of Surgery』(Schwartzeta l：McGraw-Hill Book Company)  
『Text book of Surgery』(Sabiston：W B Saunders Company)  
『外科の臨床研修』(岡田、森、藤村、加藤：南江堂)  
『新外科学大系』(中山書店1971年)  
『新臨床外科全書』(金原出版1978年)

(外科的診断学)

『Surgical Diagnosis』(P.Thorek：Lippincott Tuttle)

(外科手術書)

『現代外科手術学大系』(木本監修：中山書店)

『Operative Surgery principles and Techniques Nora』(Nora：Lee & Febiger)

『Atlas of Surgical Operations』(Zollinger / Zollinger：Macmillan Publishing Co)

『イラストレイテッド外科手術－膜の解剖から見た術式のポイント 第3版』(篠原尚 他、医学書院)

『新 癌の外科－手術手技シリーズ』(国立がんセンター編、メディカルビュー社)

(消化器外科)

『Shackelford's Surgery of the Alimentary tract』(G D Zuidema：Saunders)

『消化器外科増刊号シリーズ：合併症管理マニュアル』(へるす出版)

『消化器外科増刊号シリーズ：手術のための局所解剖アトラス』(へるす出版)

『消化器外科増刊号シリーズ：手術アトラス』(へるす出版)

『消化器外科増刊号シリーズ：標準術式のすべて』(へるす出版)

『消化器外科増刊号シリーズ：診断処置マニュアル』(へるす出版)

『Physiology of the digestive tract (2nd)』(Johson, LR Christensen, et al：Raven Press, NY)

【放射線医学講座】

『標準放射線医学』(医学書院)

『新しいIVRの実際』(中外医学社)

【薬剤部】

『消化器治療薬の選び方・使い方』(高橋信一、羊土社)

## 9 学生へのメッセージ

先人から残された医学知識は莫大なものであり、消化器領域において諸君の学ぶべきものは年々増加している。授業では、数冊の分厚い本を読んでもとても得られない実践的知識をわずか90分間に圧縮して、諸君に提供する。今の情報化社会で真の知識を選択するには、この授業を最大限活かさない手はない。

「患者の生命は医師の実践的知識、技術に委ねられる」ということをしっかりと考え、授業で積極的に情報を自分のものにすべきである。受験勉強の延長ともいえる受身型の受講態度では、知識がいくらあっても、困難に対応する能力や、障害(壁)を自ら乗り越える力を養えず、医師として不適格となる可能性がある。従って自らが学び、自らが解決する、いわゆる能動的・問題解決型の教育と諸君の積極的な勉学姿勢が必要と考える。諸君が立派な医学者、医師になるよう教官全員で見守っていきたい。